

目次

【本編】

- I. 公園の概要
- II. 目標像(公園の方針)
- III. 取組の方針

【基礎資料】

1. 公園の沿革
2. 公園周辺の特性
3. 関連計画における
公園の位置付け
4. 公園の利用実態
5. ゾーンの設定

山田池公園 マネジメントプラン (案)

令和7年4月

枚方土木事務所／公園課

※取組成果を点検、評価し、必要に応じ適宜見直していきます

I. 公園の概要

1. 公園名称:大阪府営山田池公園
2. 所在地:枚方市山田池公園、山田池南町、藤阪南町一丁目及び藤阪元町一丁目地内
3. 公園種別:広域公園
4. 開設面積:73.7 ha(都市計画面積:75.8 ha)
5. 開設日:昭和 54 年 10 月 1 日
6. アクセス:京阪バス「出屋敷」停留所すぐ

JR 片町線(学研都市線)「藤阪」駅北西へ約 700 メートル

7. 概要:

山田池公園の中心となる山田池は 1200 年前の築造と言われ、深刻な水争いの記録も残されているような歴史的にも貴重なため池であった。また、春日山には神社(春日社)が建てられ、地元の豊作祈願の信仰の場でもあった。

山田池公園は、区域のほぼ中央を東西に走る市道によって二分され、山田池を中心に樹林・竹林地帯が広がる北地区と、開放的な芝生広場がある南地区である。このような自然環境をできるかぎり生かしつつ、都会では味わうことのできない自然を満喫できる『広域公園』をめざして、公園の整備を進めている。

北地区は昭和 48 年度より整備をはじめ、平成5年に北地区全域(45.4ha)が開園した。南地区においては、昭和 61 年度から平成 10 年度までの 13 年間で、道路・河川・下水などの公共事業により発生する建設残土を受け入れ、平均5mの盛土造成を行った後、平成7年度に公園施設整備に着手し、その後順次開設している。

8. 主要施設:

- ①園路及び広場:水辺広場、展望広場、芝生の丘、芝生広場、自由広場、バーベキュー広場、川原広場
- ②修景施設:水生花園、もみじ谷、クイーンズランド庭園、四季彩花壇、クイーンズランドガーデン、コテージガーデン、ラベンダー花壇、池・せせらぎ、実りの里
- ③休養施設:休憩所(観月堤、花木園、水生花園等)
- ④遊戯施設:自由広場、芝生の丘
- ⑤便益施設:駐車場、便所、売店
- ⑥管理施設:公園管理事務所、パークセンター、倉庫、苗圃、温室、溪流ポンプ室(浮見堂)

9. 経緯:

昭和 44 年2月	都市計画公園として計画決定(75.2ha)
昭和 54 年 10 月	山田池の一部、春日山付近を開設(9.0ha)
昭和 59 年 11 月	公園種別を広域公園へ計画変更
平成5年5月	北地区全域の整備完成(45.4ha)
平成8年2月	南地区の整備着手
平成 23 年3月	都市計画変更(75.8ha)
平成 29 年5月	南地区川原広場 1.8ha を追加開設(全体開設面積 73.7ha)

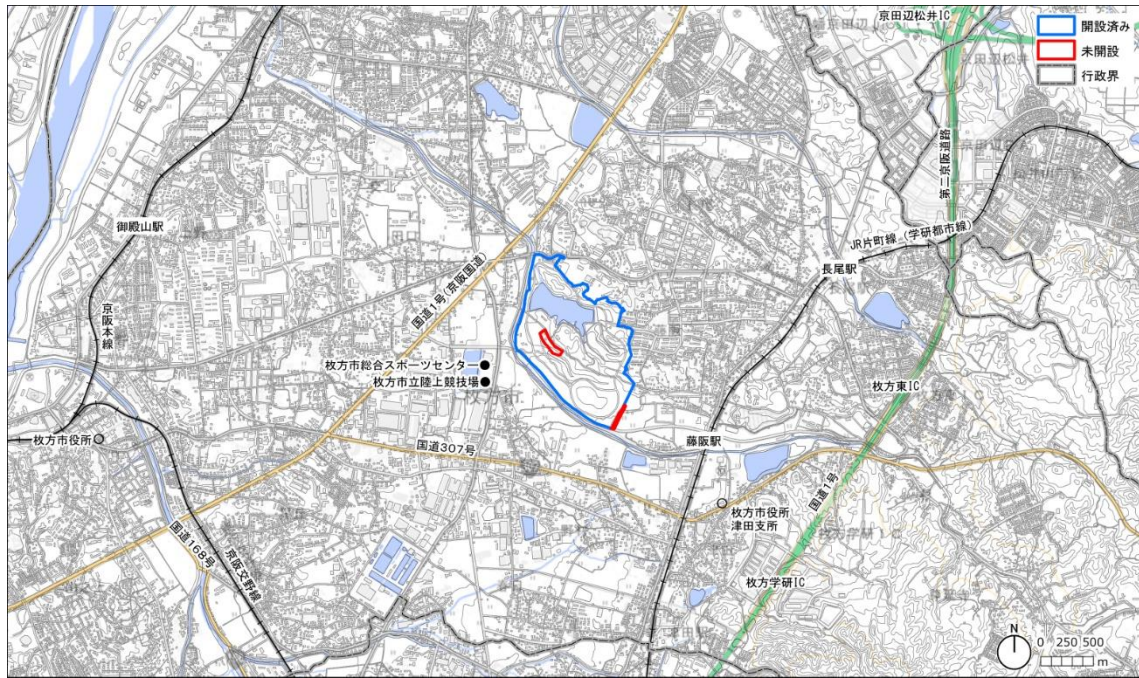


図1.広域図

出典: 国土地理院基盤地図情報 25000「大阪府」、地理院タイル・淡色地図、
国土交通省国土数値情報 を加工して作成

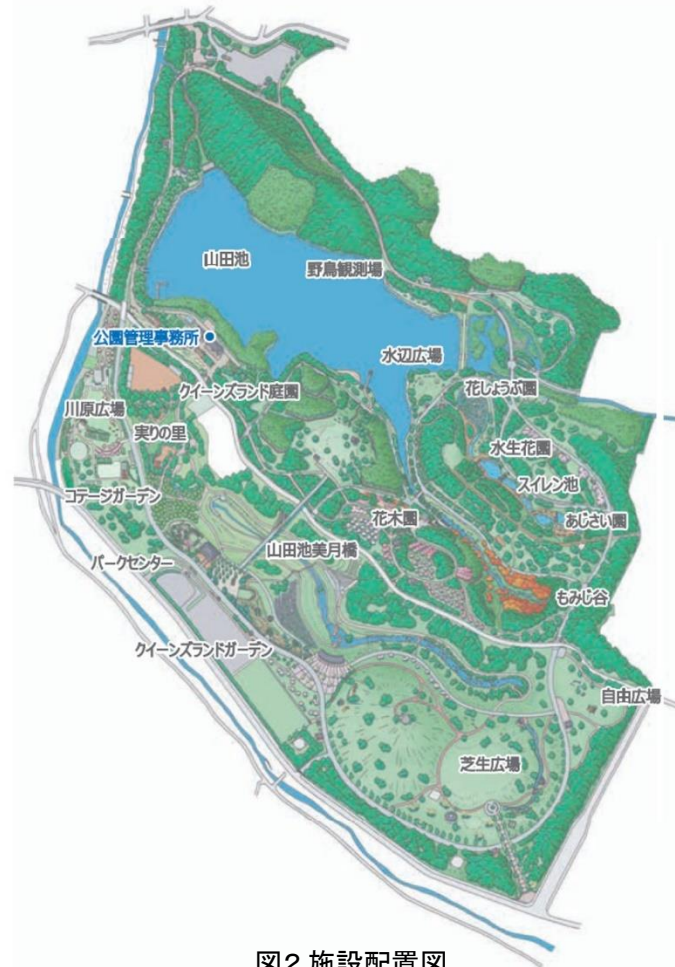


図2.施設配置図

II. 目標像(公園の方針)

マスタープランで定めた4つの目標像を実現するため、公園ごとの立地特性等に応じた目標像と方針を以下のとおり設定する。

■ 目標像:『体験や学習を通じて、様々な自然環境と触れ合える公園』

1. 取組基本方針

- 1) 公園の特色を活かし育み、都市の顔となる公園づくりを推進
 - ・ 山田池や春日山など、地域の歴史と風土に根差した自然の保全と活用
 - ・ ハナショウブをはじめとする日本の伝統的な園芸植物の保全と活用
- 2) 民間活力の積極的導入により、地域に貢献し、都市の活力を生み出す公園づくりを推進
 - ・ 自然体験を促進する施設や機能の充実により賑わいを創出する公園
 - ・ 学校や企業、地域住民と連携した農耕体験等の公園の特徴を活かしたイベントの充実
- 3) 府民の命を守り、安全・安心・快適に利用できる公園づくりを推進
 - ・ 広域避難場所として、周辺地域の避難者を地震発生時の市街地火災等から守る公園
 - ・ 後方支援活動拠点として、自衛隊や消防隊・警察の支援部隊の救出・救助活動拠点等の役割を果たす公園
- 4) 多様な自然とふれあい、都市の環境を保全する公園づくりを推進
 - ・ 山田池の生き物の生育空間を守るなど、水辺景観を活かした憩いの場を提供
 - ・ 里山景観や野生生物の生育環境を保全し、ふれあう場の提供

2. ゾーン別の方針

- 1) 自然ゾーン(山田池)
 - ・ 貴重なみどりの拠点として山田池や里山の自然環境を保全・活用するゾーン
- 2) 自然ゾーン(学習)
 - ・ ハナショウブなどの栽培・展示により伝統的な園芸植物などについて学習するゾーン
- 3) 自然ゾーン(体験)
 - ・ 農作物(花、竹、野菜)の栽培など自然体験を通じて公園の自然や恵みを楽しむゾーン
- 4) 賑わい創出ゾーン
 - ・ 開放感がある芝生の広場を中心として、イベント等を通じて賑わいを創出するゾーン

3. ゾーンの設定



図3.ゾーンの設定

III. 取組の方針

公園の目標像を実現させるためには、公園の特性を踏まえた具体的な取組を進めていくことが必要である。公園に関わる多様な主体が取組の方針を共有しつつ連携していけるように、以下のとおり取組の方針を設定する。今後、民間活力の積極的な導入並びに地元市町村及び公園周辺の事業者との連携により、公園の賑わいづくりや利用者サービスをさらに高めていくとともに、様々な周辺地域の課題についても柔軟に対応する。

1. 運営管理の方針

公園の運営管理については、本マネジメントプランで定める目標像の実現に向け、本公園の特性を踏まえた方針を以下のとおり設定する。

1) 大阪の魅力を高める

① 緑豊かな美しい景観の保全と創出を通じた都市の風格づくり

- ・ 山田池や春日山の自然を活かした自然体験型イベント等のプログラムの充実を図る。
- ・ ハナショウブをはじめとする日本の伝統園芸植物の栽培と展示に取り組むことにより公園の独自性を向上させ、更なる情報発信を行う。
- ・ 日本の伝統園芸植物をはじめ、様々な植物による「みどりの景観づくり」を推進する。
- ・ 公園の資源を最大限に活かすため、新たな付加価値の創出や ICT による健康づくりの場の提供など、先端テクノロジーを積極的に活用し、公園の魅力向上に取り組む。

2) 民間活力の積極的導入により、地域に貢献し、都市の活力を生み出す

① 広大な自然の中で育む心身の健康づくり

- ・ みどり豊かな園内での散策や軽運動など、心とからだの健康づくりが楽しめるよう、スポーツ教室等の取組の充実を図る。
- ・ アウトドアオフィスやグランピングなど、芝生広場などの開放感のある空間を活用した取組の充実を図る。
- ・ サイクルボートやジップライン等、山田池や里山を活用したアクティビティの充実を図る。
- ・ サイクリングやウォーキング等、北河内サイクルライン、穂谷川自然巡回路を活用したレクリエーションの拠点づくりを進める。

② 地域力の向上に資する活動

- ・ 実りの里の棚田での稲作などの栽培から収穫、加工し食するまでを体験するイベントプログラム等の取組の充実を図る。
- ・ 間伐やタケノコ掘りなどの里山管理ボランティア活動の支援や連携を通じて、里山景観維持の充実を図る。
- ・ 公園の管理・運営や活用を話し合う協働のプラットフォームの場を創出して、にぎわい創出につながるイベント等の充実を図る。

- 山田池公園の自然の魅力を存分に感じてもらえるように、飲食機能の充実や園路アクセス機能の向上を通じて、新たな魅力や付加価値により、賑わいを創出する。
- 民間活力の積極的な導入による公園のにぎわいづくりや利用者サービスの向上を通じて公園の魅力をさらに高めていく。

3) 府民の安全・安心を支える

① 様々な防災活動の拠点としての役割を果たすことができる公園

- 大阪府地域防災計画における後方支援活動拠点、枚方市地域防災計画における広域避難場所として、非常時においてその機能が適切に発揮できるよう、関係機関との良好な協力体制の構築や、公園入口の拡張や段差を解消し、常に適切な管理を行う。
- 地域と連携した防災訓練を通じて、公園の防災施設や機能を周知し、防災意識の向上を図る。

② 公園におけるユニバーサルデザインを充実

- 誰もが参加できる体験プログラムやイベントの開催、公園施設の改修に併せたバリアフリー化の推進など、公園におけるユニバーサルデザインの充実を図る。
- ベビールームやキッズスペース等の提供により、子育て世代の利用を促進する。

4) 都市の貴重な自然環境を次世代につなぐ

① 北河内の貴重なみどりの拠点を後世に引き継ぐ公園づくり

- 竹炭を使った水質浄化や里山の間伐、水辺植物の適正な管理を行い、枚方八景の一つ「山田池の月」として、山田池を中心とした水辺及び里山環境を保全する。
- 春日山や山田池等に生息している多くの野鳥やホタル等希少な生物の生息空間の保全及び環境整備を行い、また、池干しによる外来種の駆除等により生態系の保全を図る。

2. 維持管理の方針

維持管理の取組方針について、本公園の景観特性、施設特性等を踏まえた取組方針を以下に提示する。

1) 維持管理の取組方針

① 里山景観の維持と公園の安全対策の充実

- 園内には春日山、東山と津之木山の三つの山があり、いずれも傾斜が緩いため、散策路やレクリエーション広場としても活用できるように維持管理を行う。
- 明るく開放的な林内空間を確保し、森林の奥行きを感じさせるように樹木管理を行う。
- 美しい里山景観を創出し、貴重なみどりを後世に引き継いでいくため、密集樹林地の間伐など計画的な樹木管理を行う。
- スイレンやミズカンナ、ヨシなどの水辺植物については生態系に配慮しながら植栽管理を行う。

2) 施設別の取組方針

① 花しょうぶ園・水生花園・花木園

- 歴史的に価値の高い古花の品種もあるハナショウブをはじめとした伝統園芸植物については品種の保存と育成に努める。
- 一年を通して、植物を常に良い状態で府民に提供していくために、長期的展望にたった計画的な植物管理を行う。

② クイーンズランドガーデン

- オーストラリアの一般的な庭を再現し、一年草、宿根草やユーカリ等、葉色や形の珍しい植物を楽しめる空間として、常に美しく観賞できるよう管理を行い、情報提供に努める。

③ 作業ヤード

- 花壇づくりなど多様な主体と連携した公園管理を、より効率的・効果的に推進できるよう、園内に点在する作業ヤードの再配置や機能転換の取組を進める。

3. 整備・改修の方針

公園の整備・改修については、本公園の性格・役割や目標に照らし、長期的な視点に立つことを基本とし、整備・改修の対象となる施設の現況特性等に応じ、方針を以下のとおり定めるものとする。

1) 大阪府都市基盤施設長寿命化計画に基づく施設の改修・更新

「大阪府都市基盤施設長寿命化計画」に基づき、計画的に施設の改修・更新を実施し、公園施設の機能を維持する。

2) ユニバーサルデザインを促進

障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、施設の計画的な整備・改修を行う。

4. 評価指標と目標値

これらの取組により、多くの人が満足して利用できる公園となるよう魅力の向上を図り、マスタープランに示す以下の評価指標と目標値の実現をめざす。

表1.評価指標と目標値

評価指標	単位	現況値 (2017)	目標値 (2028)	備考
年間来園者数	万人	105	116	1割増
利用者満足度 注)	%	56	66	10%増

注) 来園者に対するアンケートで、「1.満足」と回答した人数を、アンケート回答者数で除算した値。

アンケートは「1.満足 2.やや満足 3.やや不満 4.不満 5.わからない」から選択

山田池公園 基礎資料

1. 公園の沿革

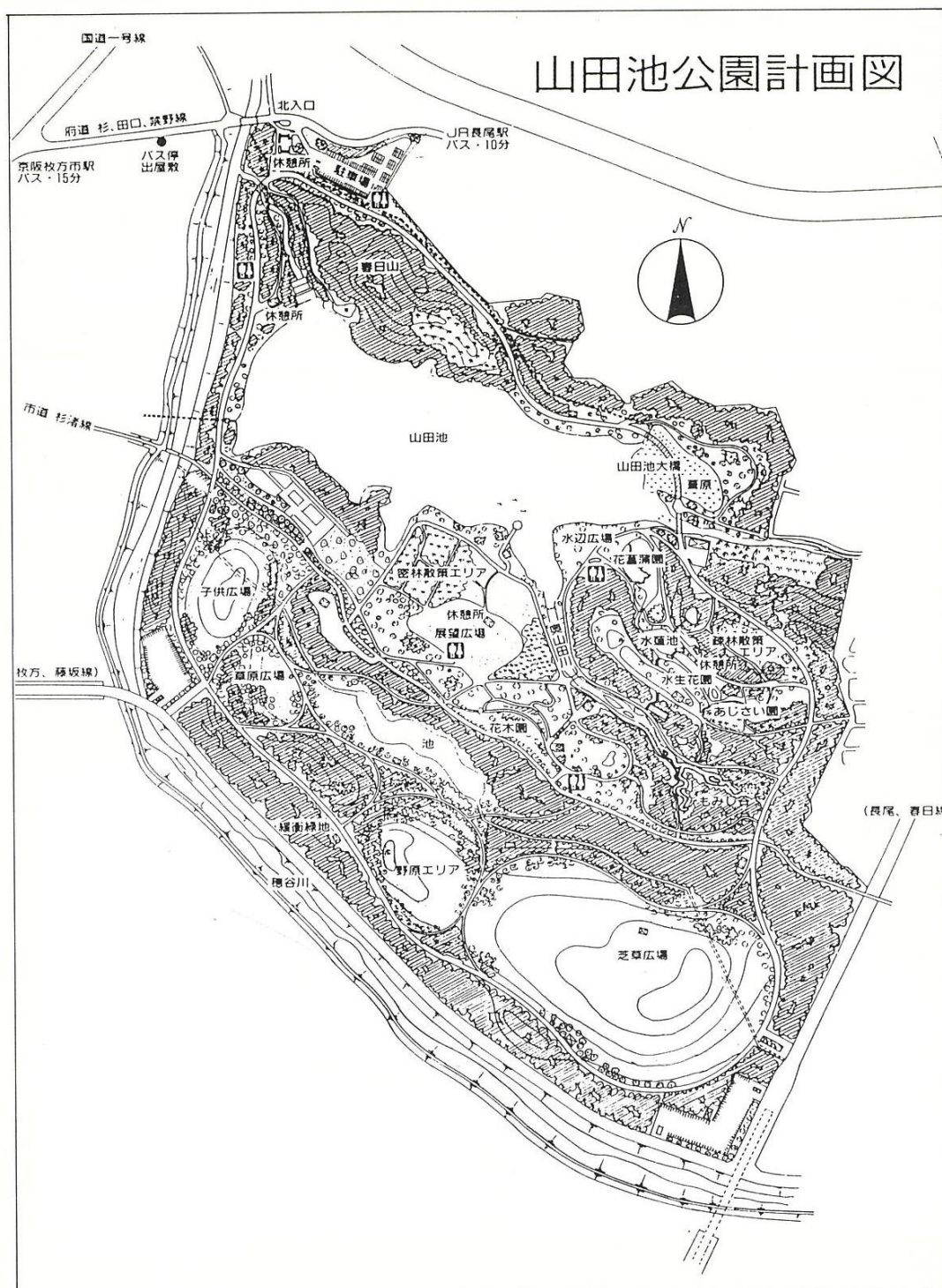
山田池公園は、「市道杉渚線」により南北に分かれており、北地区については昭和 48 年度より整備を始め、昭和 54 年 10 月に 9.0ha を開園したのを皮切りに、以後昭和 57 年に花しょうぶ園、昭和 62 年に展望広場、昭和 63 年に花木園、そして平成 5 年に事務所地区の開園により北地区(45.4ha)全域が開園した。

一方、南地区は、大阪府の公共工事で発生する建設残土処分地の不足対策として、公園の基盤造成を兼ねて公共工事の残土を受け入れることとし、昭和 60 年度から進入路工事に着手、平成 11 年度に事業が完了、大阪府への引き渡しが行われた。

南地区の公園施設の整備は平成 7 年度に着手し、平成 16 年度以降、下表に示すとおり順次開設しており、現在では、全体開設面積 73.7ha、開設率 97.2%となっている。

年月日				項目
昭和	44.	2.	5	都市計画公園として計画決定される。(面積 75.2ha)
	46.	12.	4	事業の認可により事業区域及び事業執行期間を定め、用地買収に着手する。
	48.	6.		整備事業に着手し、測量・調査・設計を始める。
	54.	10.	1	山田池の一部、春日山付近を開設する。(開設面積 9.0ha)
	57.	6.		花菖蒲園開園
	59.	11.	14	公園種別が広域公園へ計画変更される。
	61.	7.		南地区造成に着手する。
	62.	2.		展望広場地区完成
	63.	3.		花木園、溪流等を開設する。
平成	5.	5.	1	北地区全域の整備が完成する。(開設面積 45.4ha)
	8.	2.		南地区の整備に着手する。
	12.	7.	26	ねんりんピック 2000 大阪開催記念育樹祭
	16.	11.	7	南地区【芝生の丘・芝生広場・クイーンズランドガーデン・駐車場・自由広場(一部)】一部開設
	18.	5.	20	パークセンター、コテージガーデン地区開設
	20.	4.	1	自由広場開設
	21.	4.	1	池、せせらぎ部開設
		10.	1	南地区幹線園路・翡翠(カワセミ)橋開設
	23.	3.	29	都市計画変更 面積 75.2ha から面積 75.8ha へ
		4.	1	実りの里・池せせらぎ開設
	26.	4.	1	実りの里の一部を追加開設
	29.	5.	22	南地区 川原広場を追加開設(開設面積 73.7ha)

・計画図



出典：府営公園のあゆみ—公園課 30 周年記念誌—
(平成 6 年 3 月 大阪府土木部公園課)

・平面図

山田池公園平面図



出典:府営公園の今昔
(平成6年3月 大阪府土木部公園課)

・平面図

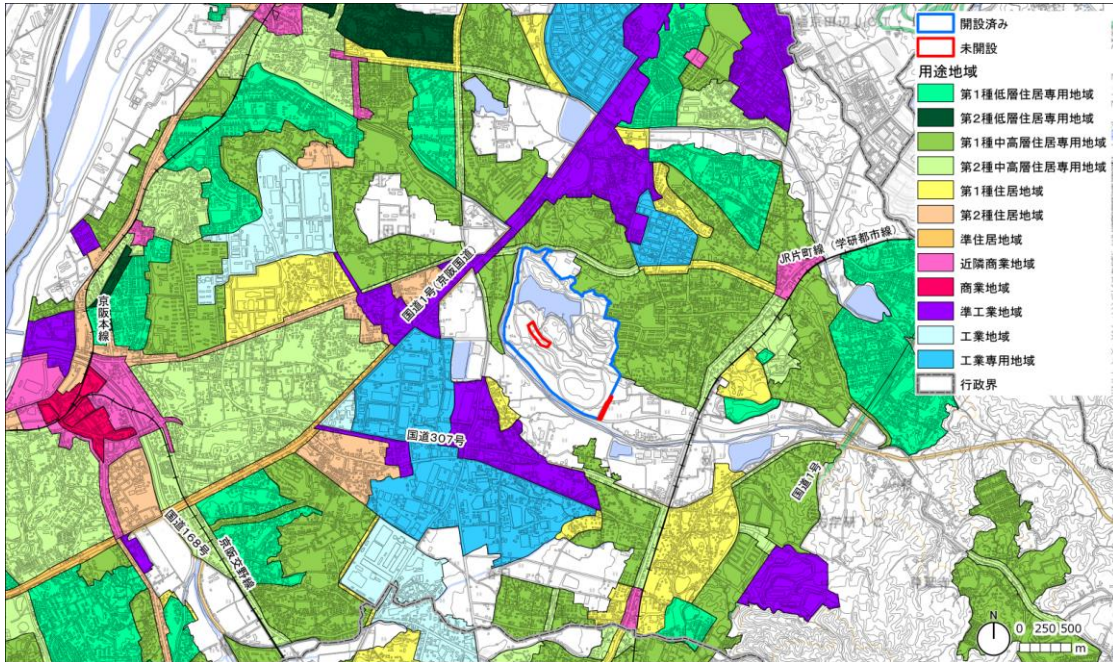


出典:府営公園 135 周年記念誌
(2009.3 大阪府都市整備部公園課)

2. 公園周辺の特性

• 用途地域の状況

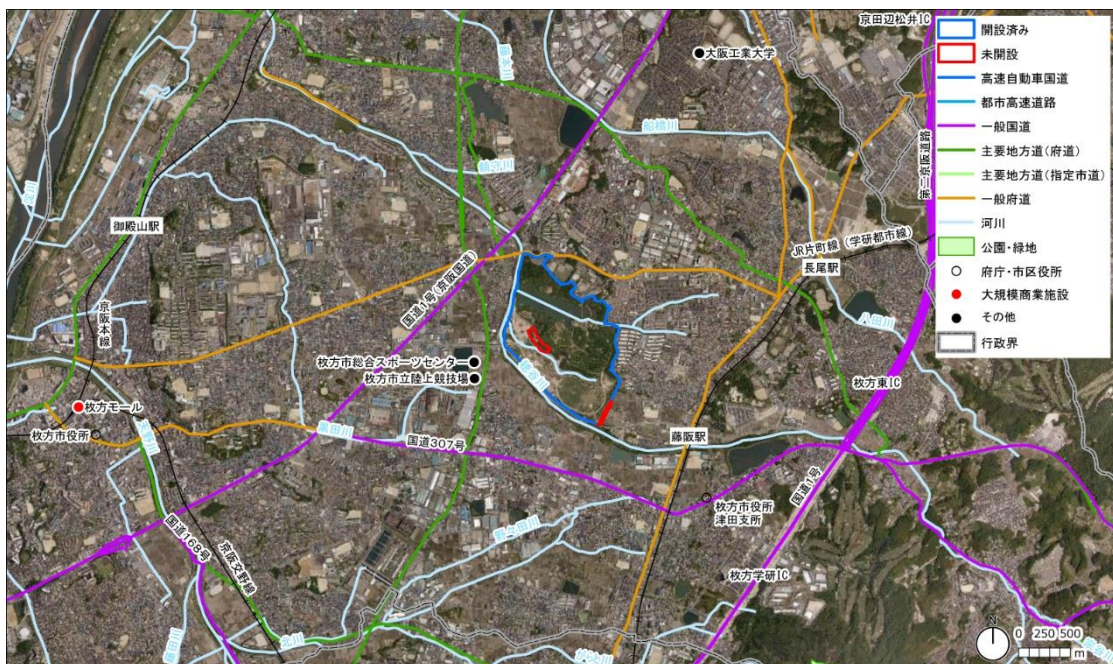
公園周辺は、主に第一種中高層住居専用地域の用途指定がなされているほか、準工業地域や工業専用地域に指定されている地域も多く見られる。



出典:国土地理院基盤地図情報 25000「大阪府」、地理院タイル・淡色地図、国土交通省都市計画決定 GIS データ を加工して作成

• 立地特性

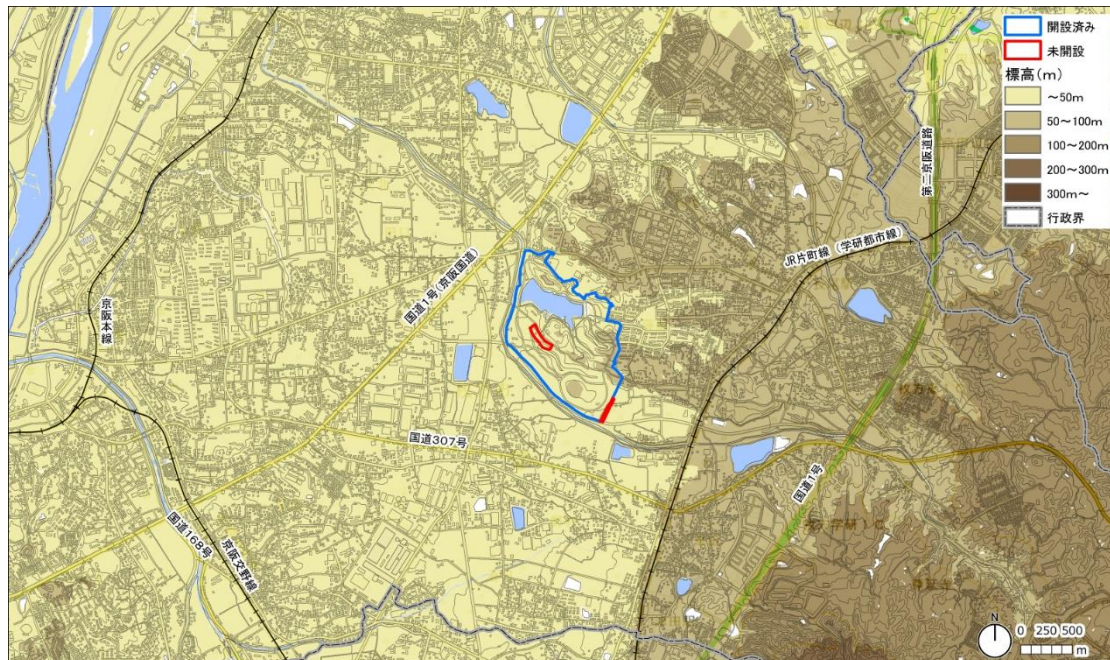
山田池公園は、公園西側に流れる穂谷川に沿い、京阪国道や JR 片町線(学研都市線)にも近い立地となっており、公園の周辺は市街地が形成されている。



出典:国土交通省国土数値情報、国土地理院航空写真 を加工して作成

• 地形条件

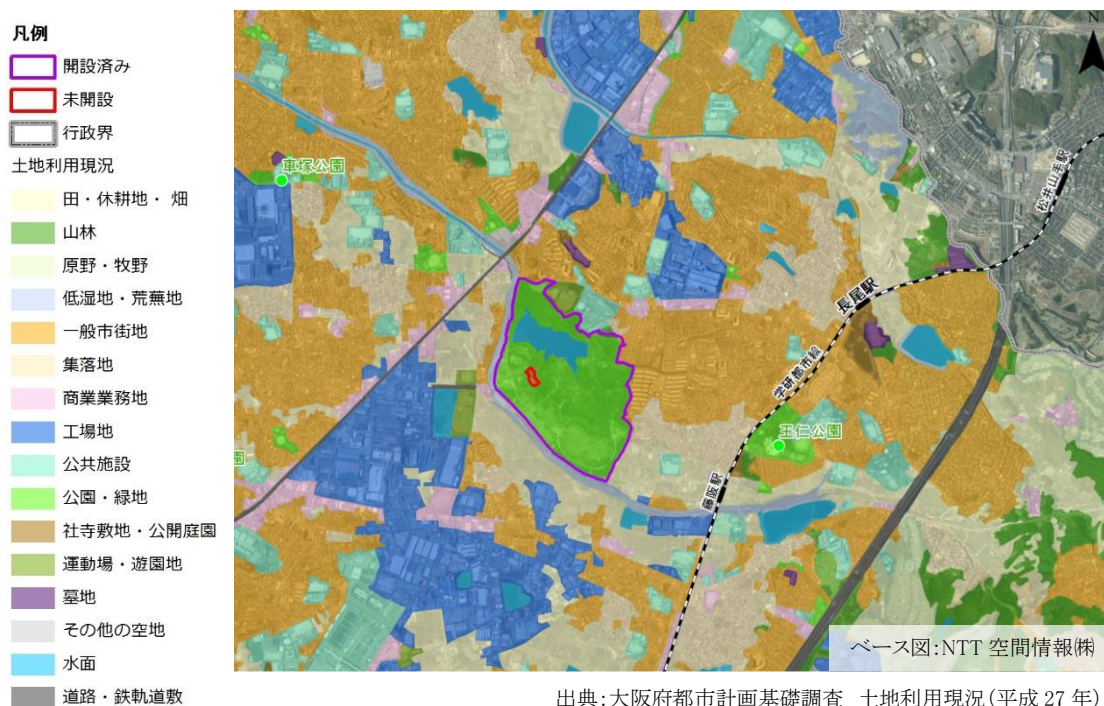
山田池公園は、生駒山地の北西部に丘陵地帯に位置し、緩やかな起伏に富む地形である。公園周辺は北西から南東に向かって高くなる地形となっている。



出典：国土地理院基盤地図情報 25000「大阪府」、
国土地理院基盤地図情報数値標高モデル を加工して作成

• 緑被状況

山田池公園の周辺は市街地や田畑、工場地が広がっており、市街地の中において貴重なまとまった緑の空間となっている。



出典：大阪府都市計画基礎調査 土地利用現況(平成 27 年)

3. 関連計画における公園の位置付け

関連する計画での山田池公園の位置付けを以下に抜粋整理する。

■東部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(都市計画区域マスタープラン)(令和2年10月改定 大阪府)

- 広域公園は、「都市の風格を高めるみどりのネットワークの拠点」及び「安全・安心で快適な暮らしを支える重要な都市基盤」、「多様な個性で都市の活力と魅力を高める府民共有の資産」という基本理念に基づき、大阪の活力と魅力を高め、府民の豊かで、安全・安心な生活を支えるとともに、みどりの少ない大阪の貴重な自然環境を保全し、次世代に継承する公園づくりを進めます。(第4章 34 頁)
- 憩いの場や交流・スポーツの場、災害時の広域的な一時避難地、市街地における貴重なみどりの拠点等、公園ごとの特色を活かし育み、公園が立地する都市の顔となるよう、公園ごとに施設の整備や、活用・管理の充実等に取り組めます。(第4章 34 頁)
- 民間が公園施設の設置を含め、公園全体をマネジメントする PMO(ピーエムオー)型指定管理や、公園の一部を活用して施設の設置・管理を行う P-PFI(ピー・ピーエフアイ)型施設整備等を導入し、民間の資金やノウハウを活用して、公園の特色や利用者のニーズに合わせたにぎわい施設の設置等、にぎわいづくりに取り組めます。(第4章 34 頁)
- 広域避難場所や後方支援活動拠点に位置付けのある公園について、防災機能を充実させるため、防災公園としての整備を進めます。(第4章 35 頁)
- 後方支援活動拠点及び広域避難場所に指定されている府営公園の整備をはじめ、農地や公園等の貴重なオープンスペースを防災空間として確保するなど、防災・減災の取り組みを実施します。(第4章 40 頁)
- 主要道路、主要河川、大規模公園緑地を軸や拠点として、環状・放射状・東西方向等のみどりの連続性や厚みと広がり確保し、周辺山系や大阪湾の豊かな自然を街へと導く「みどりのネットワーク」を形成します。(第4章 41 頁)
- 山並み、河川、大阪湾、歴史的街道、広域幹線道路、ニュータウン、大規模公園緑地等においては、大阪府が中心となって関係自治体と連携して景観づくりを推進していきます。(第4章 48 頁)

■枚方市都市計画マスタープラン(令和4年3月改定 枚方市)

- 山田池公園は、山田池を中心として広大な園内で季節の花が楽しめる公園として市民・府民に親しまれており、広域公園として大阪府により整備が進められています。(42 頁)
- また、山田池公園は枚方市地域防災計画において広域避難場所として、大阪府地域防災計画において後方支援活動拠点として位置づけられており、非常時に住民の安全を守る場として機能しており、この公園機能の充実に向けた整備を促進します。(42 頁)

- 枚方市地域防災計画において地域防災センターとして位置づけられている「輝きプラザきらら」や枚方市役所、山田池公園など、災害時の防災の拠点間のネットワーク化を図り、安全な歩行空間の確保などのため、枚方藤阪線の整備を促進します。(81 頁)
- 広域公園である山田池公園や総合公園である王仁公園は、面積約 85.4ha で都市計画に定められています。整備済みの合計面積は約 81.0ha で、計画面積に対する開設率は約 95%と高い水準となっています。(103 頁)
- 生活道路への通過交通の進入を抑制するとともに、広域避難地である「山田池公園」へのアクセス性の向上や安全な歩行空間の確保などを図る長尾春日線の整備を進めます。(105 頁)
- 山田池公園や王仁公園は市街地の中のレクリエーションや憩いの空間として、引き続き維持や活用を図ります。(106 頁)

■枚方市みどりの基本計画(平成 28 年 3 月改定 枚方市)

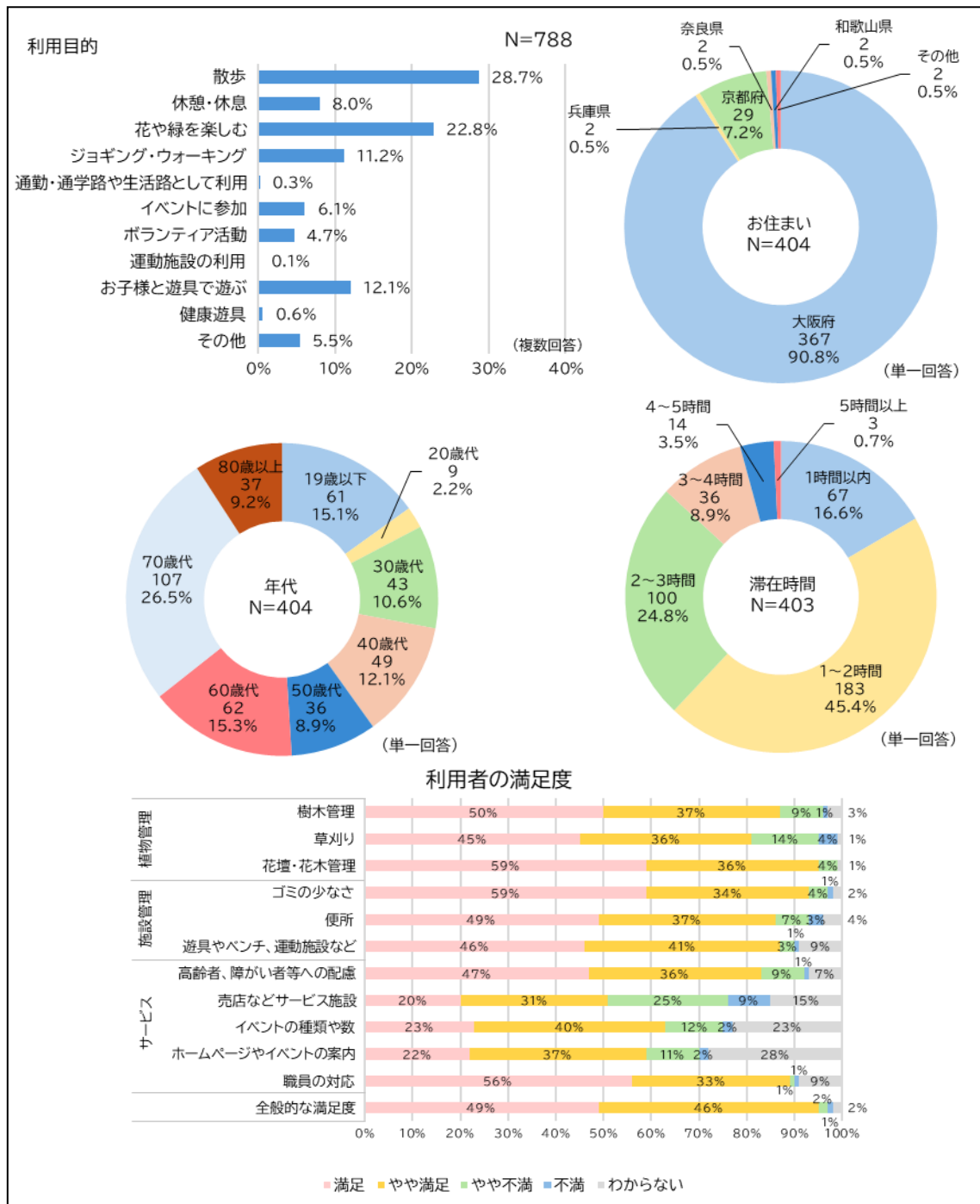
- 山田池公園や車塚公園などの公園は、災害発生時の広域避難場所や避難地、避難、延焼遮断帯として役立ち、田畑は雨水を貯留する機能を持っています。また、適切に管理された樹林は、土砂流出防止や洪水調整などの災害防止機能を有しています。これらの機能を維持・向上させつつ、みどりを介した地域交流により市民、市民団体、事業者・大学、行政が互いに連携し地域の防災力を高めるまちを目指します。(31 頁)
- 川と人とがふれあい、活動できる場が増えるよう、山田池公園と一体となった穂谷川の河川整備を促進します。また、川沿いを散策できる自然巡回路や川に近づくための階段整備などを促進します。(59 頁)
- 親水性を兼ね備えた多自然環境を形成し、子ども達が遊びを通じて自然を学ぶ場所を創出するため、山田池公園と穂谷川の一体となった整備を促進します。また、既存の公園や公共未利用地などを活用したプレーパークの設置検討などを進めます。(65 頁)
- 災害時における広域避難場所や災害救助活動の拠点として、淀川河川公園や山田池公園の整備を促進します。(65 頁)
- 中東部地域と南西部地域の施設緑地面積が大きいのは、山田池公園と淀川河川公園という大きな面積の公園があるためです。(参考 8 頁)
- 拠点的な公園・緑地の整備・拡充の施策において、これまでにできたこととして H25 年度以降、山田池公園川原広場と穂谷川沿いの多自然型護岸整備と一体整備したこと、淀川河川敷や山田池公園を広域避難場所等として整備したことが挙げられる。(参考 18 頁)
- 道路・河川の緑化の施策においては、穂谷川の山田池公園隣接区間の水辺空間等の整備を実施した。(参考 18 頁)

4. 公園の利用実態

・利用者特性の把握

本公園は、散歩や花や緑を楽しむことを目的とした利用が多い。幅広い年齢層からの利用があるが、60歳代以上が約半数を占めており、特に70歳代の利用が多い。利用者の約9割は府内からの利用であり、滞在時間が2時間以内の短時間の利用が約6割を占めている。

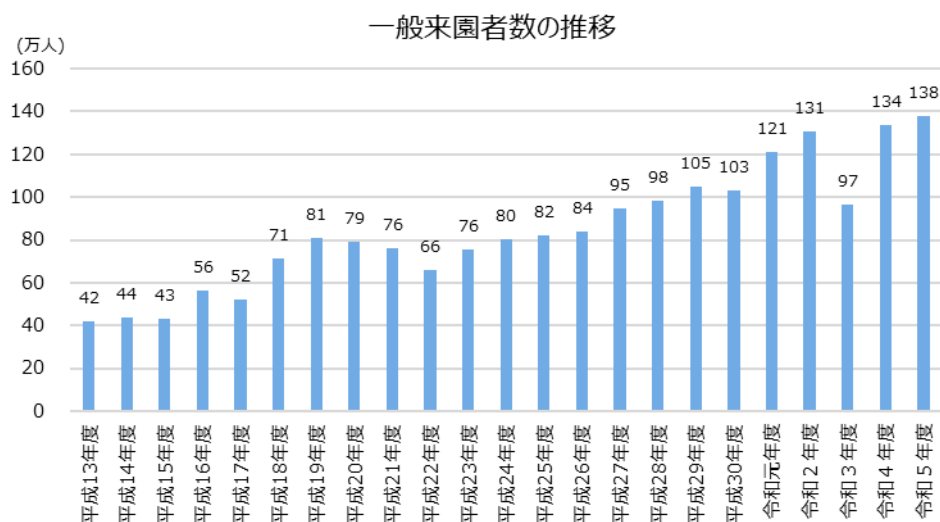
満足度では、花壇・花木管理やゴミの少なさ、職員の対応などは、満足との回答が6割程度となっているが、売店などサービス施設、イベントの種類や数、ホームページやイベントの案内に対しては、満足が2割程度と低くなっている。



・公園施設の利用実態の把握

本公園の年間来園者数は、平成 13 年度の 42 万人から年々増加傾向にあり、令和 2 年度は 131 万人となった。令和 3 年度には、新型コロナの流行などにより、97 万人に減少したが、その後は回復しつつあり、令和 5 年度には 138 万人となった。施設利用については、本公園には現在、有料運動施設等がなく、駐車場で年間約 11 万台の利用がある。

・来園者数



・施設別使用件数・使用率等

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	使用件数	使用率	使用件数	使用率	使用件数	使用率
駐車場（台）	80,364		111,036		114,623	

5. ゾーンの設定

• 各ゾーンの区分とコンセプト

マネジメントプランで設定したゾーンについて、各公園に共通するゾーン区分とコンセプトを以下のように定めた。

※公園によっては一部のゾーンのみ設定している場合がある。

ゾーン名	コンセプト
自然ゾーン	みどり、花、水等の自然資源に恵まれ、それらの魅力を保全し、活用していくゾーン
スポーツゾーン	テニスコート、野球場、球技広場等の各種スポーツの場となり、利用者の心と体の健康を作り出すゾーン
賑わい創出ゾーン	その公園の魅力を活かし、施設やイベントを通じて賑わいを創出するゾーン
レクリエーションゾーン	みどりや川辺、海浜といった豊かな自然の中で、多種多様なレクリエーション活動の場となるゾーン

- ゾーンの設定

- 公園北部には、平安時代につくられた山田池があり、全体的に生駒山から連続する丘陵地形で、春日山、津之木山が存在する。その2つの山を中心に二次林・竹林が存在し、ボランティアによる樹林地保全活動が実施されており、これらの区域を自然ゾーン(山田池・学習)として設定した。
- 公園西部は、穂谷川沿いに広がっていた農地を造成して形成されているが、遊水を穂谷川に流す谷状地形の南部に棚田・実りの里(果樹園など)の自然体験型の施設が存在し、パークセンターがそれらの活動拠点となる。クイーンズランドガーデンでは花壇管理ボランティアが活動するなど、様々な植物の栽培や管理について体験しながら学習できるエリアを自然ゾーン(体験)として設定した。
- 公園南部の市道枚方藤阪線に面する部分で、大規模駐車場やBBQ エリア、大芝生広場のある区域を賑わい創出ゾーンとして設定した。

